

# 診療報酬改定と新規睡眠薬の睡眠薬長期処方に対する効果

- 睡眠薬の長期処方は国際的な問題です。
- 日本では睡眠薬の適正使用を目的とした診療報酬改定が計3回行われましたが、その効果は調査されていませんでした。
- また、近年発売されたメラトニン受容体作動薬やオレキシン受容体拮抗薬などの新規睡眠薬は依存性がないため、睡眠薬の長期処方を抑止する可能性が示唆されていましたが、十分検証されていませんでした。
- そこで秋田大学精神科学講座の竹島正浩講師、三島和夫教授らの共同研究グループは、日本医療情報センターのレセプトデータを用い、診療報酬改定の時期に合わせて設定した3つの期間に初めて睡眠薬を処方された18万6535名を対象に、睡眠薬の長期処方に対する診療報酬改定と新規睡眠薬の効果を調査しました。（期間1：2012年4月～2013年3月、期間2：2016年4月～2017年3月、期間3：2018年4月～2019年3月）

## 睡眠薬に対する診療報酬改定

2012年4月

睡眠薬の多剤併用に対する診療報酬改定。  
主に精神科医・心療内科医が対象。

2014年4月

睡眠薬の多剤併用に対する診療報酬改定。  
すべての医師が対象。

2018年4月

ベンゾジアゼピン受容体作動薬の長期処方に対する診療報酬改定。すべての医師が対象。